

皆さん

学長の河野です。

至急の連絡があり、臨時メールを配信します。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大リスクについて、長崎大学が行ったシミュレーションが非常にインパクトのある結果となり、私たちの早急な行動変容が必要と判断したためです。「またか」と思った皆さん、今回は感染拡大のスピードなど、これまでとは様相が違います。必ず下記レポートを読み、ゴールデンウィークに至るこれからの皆さんの行動に反映させてください。

長崎大学では、熱帯医学研究所の有吉紅也教授・砂原俊彦助教を中心とした「新型コロナウイルス感染症疫学検討班」が、これまでも感染拡大リスクについてシミュレーションを続けてきました。今回、第4波の動向についてシミュレーションをしたところ、私たちは今日にもすぐに行動変容を起こし、感染者数を抑え込まない限り、ごく短期間に、具体的にはゴールデンウィーク前後には一気に第3波のピーク時の2倍の感染者数が生じることが予測されました。

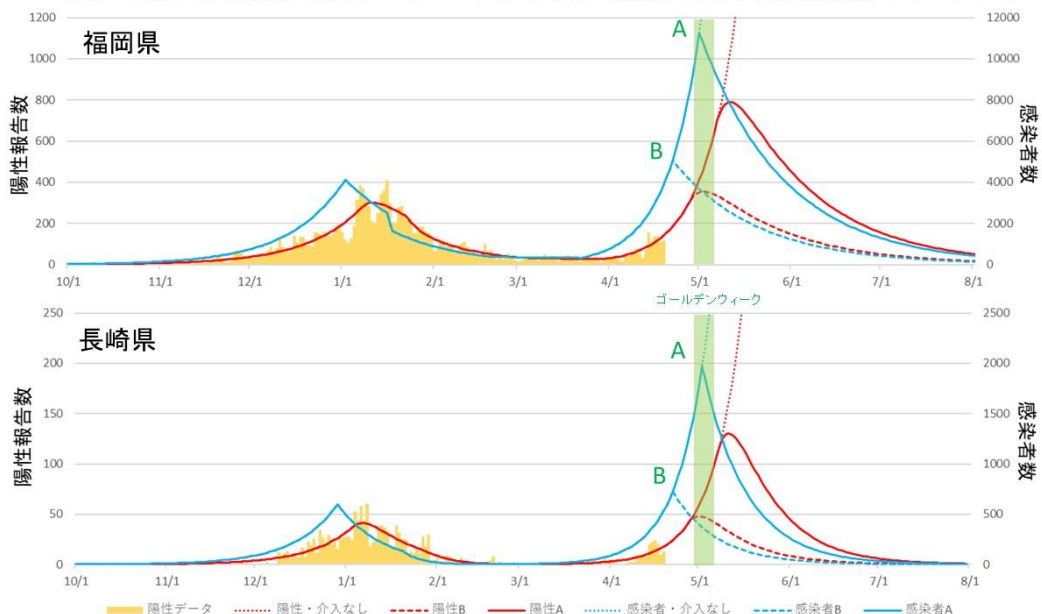
連休前の感染拡大リスクの高まりと早期対策の必要性について

2021/04/20

長崎大学新型コロナウイルス感染症疫学検討班

熱帯医学研究所の研究者を中心とするメンバーが行った長崎県および福岡県の新型コロナウイルス感染症(以下 コロナ)流行動態に関する数理モデルを使った分析結果によれば、連休中に感染者¹⁾が減少に転じたとしても、第4波は、第3波の約2倍になります(シナリオ A)。一方、今すぐ人流を抑え、人との接触機会を減らす等の行動をとり、早急に新たな感染者数を減少に転じることができれば、患者数を第3波と同程度に抑え込めることができます(シナリオ B)。

実際の陽性報告数(黄色棒)とそのモデル予測値(赤線)、感染者数(青線)を示します。



シナリオA: 陽性報告数が第3波のピークを越えた日より増加率が低下する場合、感染者のピークは福岡5/1、長崎5/2となる。陽性報告数のピークは福岡5/11、長崎5/11となり、ピークの報告数はそれぞれ789人、130人となると予測される。
シナリオB: 4/22より増加率が低下する場合は、陽性報告数のピークは福岡5/2、長崎5/1となり、ピークの報告数はそれぞれ354人、48人となると予測される。

(分析結果、図)

- 1) 第4波はすでに始まっており、その感染拡大速度(R)は第3波よりも速い(おそらく変異株の影響)。
- 2) 大型連休までこのままの速度で感染拡大すると、連休明けに福岡でも長崎でも、少なくとも第3波の2倍程度の陽性報告者数のピークを迎える(シナリオ A)。
- 3) 連休以降も感染拡大が継続するとさらに悪い状況になる。
- 4) 現在、福岡と長崎の理論上の感染者数は第3波のピークに近いと考えられ、今すぐに感染者を減少させれば第4波のピークは第3波と同程度となる(シナリオ B)。

医療崩壊を防ぎ、少しでも感染拡大を抑えるために、私たち一人一人ができることに丁寧に取り組むときです。改めて、今取るべき行動を確認し、[在学生・保護者の皆様へ | 長崎大学 \(nagasaki-u.ac.jp\)](#) 即時、実行してください。

長崎大学長 河野 茂